



受け継がれる伝統と迫力

長野県
支部
だより

今年は日本三大奇祭の一つと言われる御柱祭の年です。
御柱祭は7年目毎、寅と申の年に行われます。

諏訪大社の4つの社殿の柱を建て替えるため、長さ17メートル重さ13トンもあるモミの木16本を山から切り出し、上社は約20キロ下社は12キロもの道筋を4月から5月の2ヶ月間に渡って曳行します。

途中、「木落とし」が最大の見せ場です。最大斜度40度の斜面を弾き飛ばされながら滑り降りる迫力有る光景をニュースなどで見たことがある方は多いのではないのでしょうか。

まさに、命がけの作業です。



また、神社まで曳行する里曳祭は、長持ち、騎馬行列などが華麗に繰り広げられます。諏訪地方の氏子20万人以上と訪れる親戚、観光客がこぞつて参加し、熱中するお祭です。長野県支部のある辰野町でも、諏訪大社程大規模ではありませんが、地区ごとに諏訪神社の御柱祭を行います。

新型コロナウイルスによる感染対策で御柱祭も従来とは形を変えて実施されますが、人々の祭りにかける熱い思いと伝統は次の世代へと引き継がれていきます。